



保健医療学学会と私 ～すべての人に感謝の意を表します～

保健医療学学会第 10 回学術集会 集会長

大阪保健医療大学 保健医療学部 リハビリテーション学科

教授 境 隆弘

本学会が創立 10 周年を迎えました。この 10 年の間、本学会の発展は、創設時に奔走された先生方の強いお志とご尽力に始まり、そして、それを継続している現行の多くのスタッフによる賜物だと存じます。私は学会設立時から関わりを持たせて頂いており、創立 10 周年と聞くと、感慨一入ですが、つい“先月”までは、どちらかと言うと苦い種類の方の忘れられない思い出が大半でした。以下、しばらく失敗談にお付き合いください。

設立当初、私は監事の役目を仰せつかりました。これまで監事の経験は一度も無く、元来お金の扱いが不得手な私は（後述にもお金の失敗エピソードあり）、監査のたびに計算ミスや必要書類の不備などを頻発し、当時の執行部の先生方には多大なご迷惑をおかけしたことを記憶しています。この場をお借りして、改めてお詫び申し上げます。

次に忘れられない大きな失敗は、第 3 回学術集会の時でした。前々から「ガラスの声帯」と揶揄されるほど潰れやすい私の喉は、これまでも声が出なくなることで、仕事に穴を開けてしまったことがあります。特に冬場は空気の乾燥により、かなりの頻度で声がかすれて出なくなるのですが、こともあろうに集会長講演の司会という大役を仰せつかったこの集会の当日、全く声が出なくなりました。焦って慌てふためく私に、笑いながら「代わったるで」の一言で司会を代わってくださったのが、故・西村敦先生でした。天国の西村先生、その節は本当にありがとうございました。

また、第 5 回学術集会では準備委員長という大

任を拝しましたが、後にも先にもない赤字を出してしまいました。当時の役員の方には大変ご迷惑をおかけしました。謹んでお詫び申し上げます。

こんな迷惑をかけてばかりの私でしたが、今年は第 10 回学術集会会長を任ぜられました。まずは、集会当日はるばる静岡県から日帰りでお越し戴き、特別講演「国際競技大会におけるサポート活動～東京オリンピック・パラリンピック競技大会への取り組み～」をご講演戴いた、講師の鈴木章先生（国立スポーツ科学センター）に深く感謝の意を表します。この原稿は、“今月”あつたばかりの集会終了直後に執筆していますが、開催結果は歴代最多の 18 演題（学生発表を除けば、第 6 回とタイ）が集まり、赤字を出すこともなく、そして、第 3 回集会時の教訓から毎年 11 月に入ればマスクをして喉の保湿をするのが習慣となった甲斐もあり、私もきちんと声が出て、成功裏に終えることができました。これも偏に、特別講演の講師擁立時に戴いたお力添えや、準備・運営に関する数々の方面からのご助言、演題数増加のための多くの方々からのご支援、そして志の高い学生さんの大勢の参加、これら本学会に関係のある、あらゆる人たちに支えられて、集会が成立したと感じております。皆様、本当にありがとうございました。

最後になりましたが、本学会が次の 10 年、更にその先の未来においても、本学会に関わるすべての人が、これまで同様に今後も支えあいながら発展していくよう祈念致します。